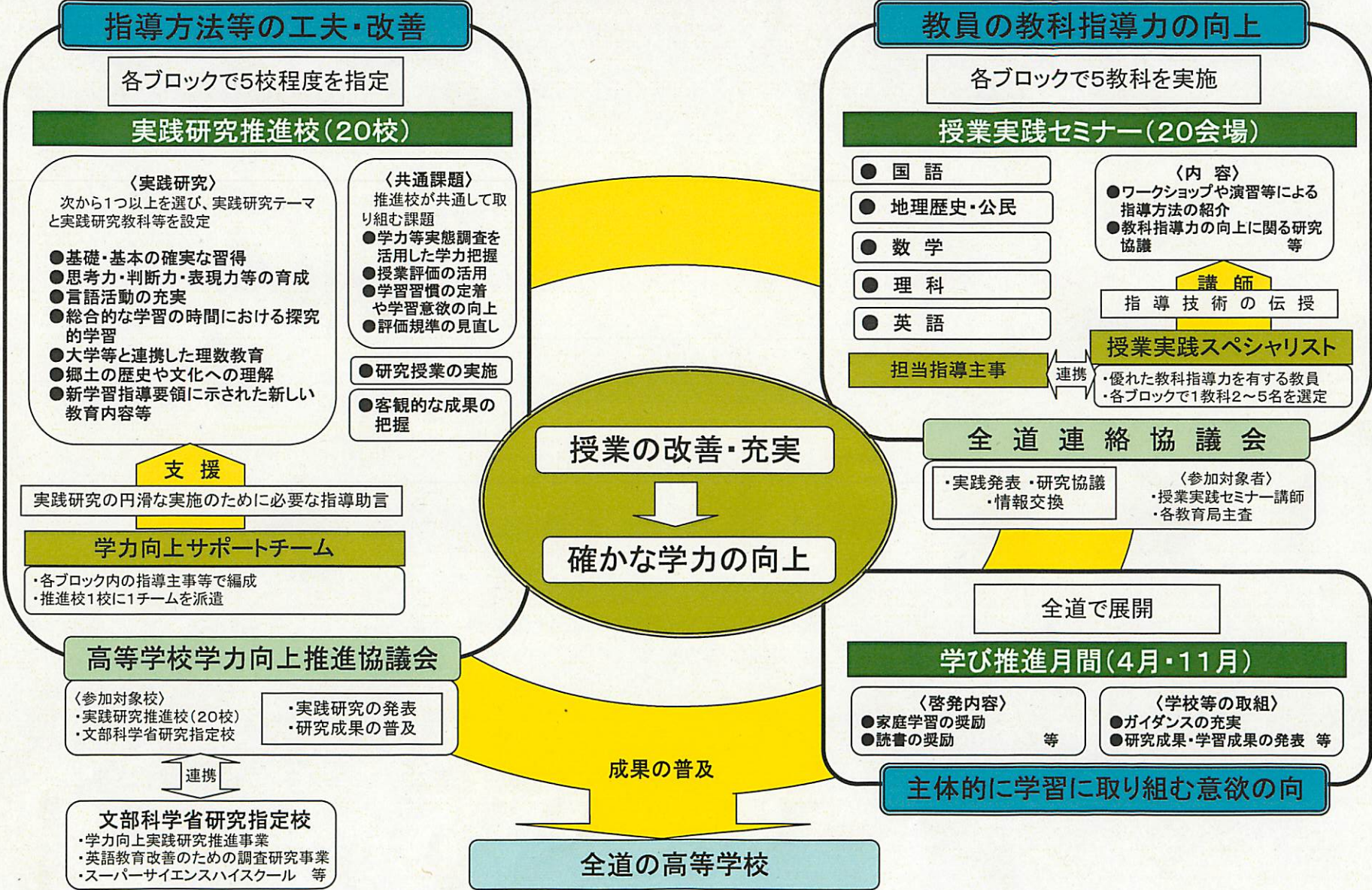


確かな学力を育む高校教育推進

新学習指導要領がめざす確かな学力の向上



確かな学力を育む高校教育推進事業 事業計画書 [平成21年度]

1 学校の概要

学校名	北海道 留萌 高等学校 (全・定)				校長名	榎木 幸夫		
学科名	生徒数 (H21年5月1日現在)					教員数 (H21年5月1日現在)		
	1年	2年	3年	4年	計	国語: 5名	保体: 4名	(専門教科)
普通科	152	190	199		541	地歴: 3名	芸術: 2名	: 名
						公民: 2名	外国語: 6名	: 名
						数学: 6名	家庭: 1名	: 名
						理科: 4名	情報: 1名	計 34名

確かな学力に関する学校の課題	<p>平成20年度卒業生の進路決定状況は約93%であり、道内の普通科高等学校と比較しても高い決定率であった。しかしながら、現在の社会情勢やここ数年の入学者選抜学力検査結果等を考え、本校生徒の夢の実現に向けて、さらなる学力の向上を図る必要がある。</p> <p>本校は、地域における中核校として、生徒の進路実現に向けて授業の充実や平常講習等への積極的な取組を行っているが、生徒の家庭学習や主体的な学習不足等の課題が顕在化している。</p> <p>については、課題解決に向けて「各教科等における、思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導方法等の工夫改善」を実践研究テーマとして、生徒の確かな学力の向上と定着のために、主体的に学ぶ意欲を喚起する授業や評価の工夫、家庭学習の習慣化を図るための継続した学習課題の工夫等の研究推進を図る。</p>
----------------	---

2 実践研究計画等

(1) 共通研究課題 (平成21~22年度)

項目	具体的な取組の方策
ア 学力等実態調査を活用した学力の把握と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○「学力等実態調査」の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・実施教科における調査結果の分析と課題の明確化 ○校内研修会における授業改善の方策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・学力等実態調査や定期考査等の分析結果をもとに明らかとなった諸課題について説明 ・課題解決のための方策について提案 ・提案内容に関する研究協議 ○生徒による授業評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価項目の工夫と改善 ○研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の結果、その課題解決のための方策を焦点化した研究授業の実施
イ 生徒や教員相互による授業評価などを活用した、PDCAサイクルに基づく授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための方策に焦点化した研究授業の実施 ・課題と方策の共有化 ○授業評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価及び教員による授業評価の実施 ・評価結果を基に課題解決のための方策について協議
ウ 学習習慣の定着や学習意欲の向上のための指導方法、教材等の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○指導方法、教材等の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・各種研究会参加や学校視察等の実施 ・研究授業の実施 ○家庭学習習慣化に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科による学習課題の研究
エ 到達目標の設定及びその目標を踏まえた評価規準の見直し・改善	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科による到達目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・学力等実態調査や定期考査等の分析結果をもとに協議し、目標を設定 ○評価規準の見直し・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での評価結果を調査するとともに、生徒の実態に応じた評価規準の見直しに向けた研修会の実施

(2) 実践研究

実践研究テーマ	各教科等における、思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導方法等の工夫改善	
実践研究教科等	具体的な実践研究内容	
◎地理歴史 ◎国語	21年度	<p>地理・歴史科において次の実践研究に取り組む (2・3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高め、歴史的なものの考え方を育成するための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・各種教材の工夫・活用(特に実物資料の活用により視覚・触覚に訴える工夫) ・歴史資料(考古資料・文字資料・絵画資料)の扱い方等の教材化 ○調べ学習を通じ、主体的に歴史を復元、解釈、評価する力を育成するための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査学習の実施(発表会等) ○郷土の歴史探訪を通じて地域の現状・課題を考えさせるための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を活用した、地域の状況についての考察(地域住民を講師として招聘) <p>国語科において次の実践研究に取り組む (3年国語表現選択者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現指導における確実な学力定着のための指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・表現する意欲を高める指導の工夫・改善 ・事後指導の工夫・改善 ○効果的な学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞(NIE)を活用した表現の指導 ・推敲(自己)→批評(生徒)→評価(教師)→掲載(新聞社)と段階を経た表現力の向上 ○評価の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞投稿を活用した、評価方法の工夫
	22年度	<p>地理・歴史科において次の実践研究に取り組む (2・3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度の実践研究の成果と課題を踏まえた学習指導に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法等の検証及び改善 ○評価方法の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果の分析を基にした研究及び発表会等の実践評価の工夫 <p>国語科において次の実践研究に取り組む (3年国語表現選択者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現指導における確実な学力定着のための指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を踏まえ、さらに意欲を高める指導の工夫・改善 ・事後指導の工夫 ○前年度の成果と課題を踏まえた研究 <ul style="list-style-type: none"> ・指導法と評価規準の検証 ○評価の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲を引き出し、表現力向上を図る評価方法の工夫・改善

(3) 目標指標

指 標	評価の方法	2年後の期待される成果
○生徒の学力把握	・学力等実態調査の調査結果	・全体の設問に対する正答率の向上
	・学習状況等調査結果	・家庭学習時間の10%増加 ・講習等の受講者の10%増加
	・各種検定の受験者数と合格者数	・受験者数、合格者数の10%増加
	・生徒による授業評価の評価結果	・「授業内容がわかる」と回答する生徒の10%増加
○思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組状況	・生徒による授業評価において、思考力・判断力・表現力等の育成に関する項目の評価結果	・育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加
	・校内研修会の実施回数	・年5回実施
	・各種研究会や学校視察等への参加状況	・参加・出席数の10%増加
	・研究授業の実施状況	・各教科で、思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業研究を実施するとともに、本研究事業に関する研究授業の実施及び普及
	・研究授業の参観アンケートにおける回答	・思考力・判断力・表現力等のアンケート項目の向上
	・授業評価の活用状況	・授業評価を活用した、授業改善プログラムの確立
	・評価規準の見直し・改善の状況	・授業評価の該当項目の改善傾向の10%増加

【様式2】

確かな学力を育む高校教育推進事業 中間報告書 [平成21年度]

学校名	北海道留萌高等学校	(全・定)	校長名	櫻木 幸夫
-----	-----------	-------	-----	-------

1 研究授業の実施状況

実施日	教科	研究テーマ	参観者数	
11月9日(月)	国語	NIEを利用した表現活動の研究を行う。	自校 8人	他校 4人
12月18日(金)	地歴・公民	郷土資料をもとに「近代の戦争」の特徴について「平和の条件」について考える。	自校 7人	他校 5人
研究授業実施の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:到達度がわずかに伸び、そこから自己肯定感を構築し、卒業論文の内容的な充実とプレゼンテーションの動機付けとすることができた。 ・地歴・公民:郷土資料を活用することにより、主体的・総合的に歴史をとらえる力、解釈して表現する力を身につけることができた。 			

2 学力向上サポートチームの活用状況

実施日	教科	内 容
10月14日(水)	国語	11月の研究授業に向けた学習指導案の吟味
11月9日(月)	国語	研究授業と合評会・反省
12月18日(金)	国語	今後の展開と新学習指導要領から見たNIEの意味
11月20日(金)	地歴・公民	研究授業に向けた学習指導案の検証
12月18日(金)	地歴・公民	研究授業の合評会・反省
1月28日(木)	地歴・公民	考査問題の検証、次年度の展望
サポートチームの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:研究授業の目標を明確化することにより、研究授業に向けた準備と指導計画の充実を図ることができた。 ・PDCAサイクルに基づき、実践的な授業改善が促進された。 	

3 実践研究の取組状況

(1)共通研究課題

項目	平成21年度の取組内容
ア	<ul style="list-style-type: none"> ○学力実態調査を活用した学力の把握と授業改善 ○学力実態調査の実施 ○調査結果の分析と課題の明確化 ○調査の分析結果をもとにした校内研修会の実施 ○各教科による研究授業の実施 ○生徒による授業評価をもとにした授業改善の教科内研修
イ	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や教員相互による授業評価などを活用した、PDCAサイクルに基づく授業改善 ○各教科で課題と方策を共有化し、課題解決の方策に焦点化した研究授業の実施 ○生徒による授業評価を実施し、その結果を基にした課題解決のための方策についての協議
ウ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲の定着や学習意欲の向上のための指導方法、教材等の工夫 ○学習意識調査(1、2年生の生徒・保護者対象)を実施し、その結果をもとにした分析と課題の明確化 ○各種研究会、学校視察、研究授業からの指導方法、教材等の工夫・改善 ○各教科での家庭学習課題の研究
エ	<ul style="list-style-type: none"> ○到達目標の設定及びその目標を踏まえた評価規準の見直し・改善 ○学習意識調査や定期考査などの分析結果をもとにした各教科による到達目標の設定 ○各教科での生徒の実態に応じた評価規準の検討

(2)実践研究課題

実践研究テーマ	各教科等における、思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導方法等の工夫改善
実践研究教科等	平成21年度の取組内容
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○対象生徒:3年国語表現I 選択者 ○表現指導における確かな学力定着のための指導方法の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・表現する意欲を高める指導の工夫・改善 ・事後指導の工夫・改善 ○効果的な学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞(NIE)を活用した表現の指導 ・推敲(自己)→批評(生徒)→評価(教師)→掲載(新聞社)と段階を経た表現力の向上 ○評価の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞投稿を活用した、評価方法の工夫
地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○対象生徒:2、3年 ○学習意欲を高め、歴史的なものの考え方を育成するための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・各種教材の工夫・活用(特に実物資料の活用により視覚・触覚に訴える工夫) ・歴史資料(考古資料・文字資料・絵画資料)の扱い方等の教材化 ○調べ学習を通じ、主体的に歴史を復元、解釈、評価する力を育成するための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査学習の実施(地域・見学旅行先) ・調査後のプレゼンテーションに関する指導方法の工夫 ○郷土の歴史探訪を通じて地域の現状・課題を考えさせるための研究 <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を活用した、地域の状況についての考察

4 目標指標の達成状況

指標	評価の方法	期待される成果	基準値 (事業実施前の状況)	平成21年度末の状況	達成度
生徒の学力把握	学力等実態調査の調査結果	全体の設問に対する正答率の向上	国語 64.9% 数学 47.7% 英語 44.8%	国語 53.3% 数学 33.2% 英語 43.0%	▼
	学習意識調査結果	家庭学習時間が1時間以上の生徒の割合が10%増加	1年生 21% 2年生 24%	1年生 24% 2年生 28%	●
		講習等の受講者の10%増加	1年生 — 2年生 21%	1年生 37.5% 2年生 23.7%	○
	各種検定の受験者数と合格者数	受験者数の10%増加	1年生 — 2年生 34%	1年生 28% 2年生 51%	★
		合格者数の10%増加	1年生 — 2年生 61%	1年生 36% 2年生 47%	▼
生徒による授業評価の評価結果	「授業内容がわかる」と回答する生徒の10%増加	1年生 62% 2年生 60%	1年生 66% 2年生 63%	●	
思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組状況	生徒による授業評価において、思考力・判断力・表現力等の育成に関する項目の評価結果	思考力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 64% 2年生 65%	1年生 67% 2年生 69%	●
		判断力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 78% 2年生 82%	1年生 82% 2年生 86%	●
		表現力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 71% 2年生 69%	1年生 74% 2年生 73%	●
	校内研修会の実施回数	年5回実施	年4回	年5回	★
	各種研修会や学校視察等への参加状況	参加・出席数の10%増加	教職員 68%	教職員 71%	●
	研究授業の実施状況	各教科で、思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業研究を実施するとともに、本研究授業に関する研究授業の実施及び普及	各教科年1回	各教科年1回	□
	研究授業の参観アンケートにおける回答	思考力・判断力・表現力等のアンケート項目の向上	—	9教科中2教科	
	授業評価の活用状況	授業評価を活用した、授業改善プログラムの確立	—	9教科中2教科	
	評価規準の見直し・改善の状況	授業評価の該当項目の改善傾向の10%増加	—	9教科中2教科	

※達成度 ★:5割以上達成 ●:3割以上達成 ○:1~2割達成 □:達成度1割未満 ▼:マイナス

○その他の成果

- ・学習意識調査等の結果を踏まえて、各教員が授業改善を意識し、より一層、生徒の実態に応じた授業の工夫を考えるようになった。
- ・進路指導等で生徒の積極的な取り組み(面接練習や小論文指導での自己表現)が見られるようになった。

5 平成21年度における課題と今後の取組

- ・生徒の多様な進路に対応した授業方法の工夫を行う。
- ・生徒の実態に即した教育課程の見直しを行う。
- ・家庭学習時間の不足を解決するために、各教科において平常課題や週末課題等の工夫とその指導方法の研究を行う。

【別紙2】

「確かな学力を育む高校教育推進事業」実績報告書 [平成22年度]

学校名	北海道留萌高等学校	((全)・定)	校長名	近田 勝信
-----	-----------	---------	-----	-------

1 研究授業の実施状況

実施日	教科	研究テーマ	参観者数
12月6日(月)	国語	思考力・判断力・表現力の育成	自校 6人 他校 7人
12月8日(水)	地歴・公民	思考力・判断力・表現力の育成	自校 7人 他校 5人
研究授業実施の成果	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の意見をまとめて発表する場面を設定するなどの授業改善が図られ、表現力を育成するための効果的な指導方法の在り方についての研究が深まった。 実践研究テーマについて、他教科においても研修等が行われ授業改善が進んだ。 		

2 学力向上サポートチームの活用状況

実施日	教科	内 容
11月8日(月)	国語	実践研究テーマに基づく、研究授業に向けた実施計画の検討
12月6日(月)	国語	研究授業後の研究協議における助言と今年度の取組のまとめ
10月27日(水)	地歴・公民	実践研究テーマに基づく、研究授業に向けた実施計画の検討
12月8日(水)	地歴・公民	研究授業後の研究協議における助言と今年度の取組のまとめ
サポートチームの効果	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業に向けた事前指導により、発問の工夫や学習プリントの活用の仕方など、具体的な指導を受けることで授業改善の取組が進んだ。 研究授業後の研究協議における助言等により、学校全体で授業改善を推進していくための教員の共通理解が図られた。 	

3 実践研究の取組状況

(1)共通研究課題

項目	平成22年度の取組内容
ア	<ul style="list-style-type: none"> 学力実態調査の実施 調査結果の分析と課題の明確化 校内(教科内)研修会における授業改善の方策の検討 授業評価(生徒、教員相互)の実施 各教科による研究授業の実施
イ	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教員相互による授業評価などを活用した、PDCAサイクルに基づく授業改善 課題解決の方策に焦点化した研究授業の実施 生徒・教員相互の授業評価を実施し、教科内で課題解決の方策の協議 教職員全体での方策の共有化
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の定着や学習意欲の向上のための指導方法、教材等の工夫 学習意識調査(2、3年生の生徒・保護者対象)を実施し、その結果を基にした分析と課題の明確化 各種研究会、他校での公開授業・研究授業からの指導方法の工夫・改善 各教科での家庭学習課題の研究
エ	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標の設定及びその目標を踏まえた評価標準の見直し・改善 学力実態調査、定期考査、生徒の授業自己評価などの分析結果をもとにした各教科による到達目標の設定 各教科での生徒の実態に応じた評価標準の検討と見直し

(2)実践研究課題

実践研究テーマ	各教科等における、思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導方法等の工夫改善
実践研究教科等	平成22年度の取組内容
国語科	<p>国語科 対象生徒:1年</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語総合での学習への動機付けとしてのNIEの導入と効果的な指導法の研究 表現指導における確かな学力定着のための指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決をととした様々な表現方法の体験 意欲を高める指導の工夫・改善 事後指導の工夫 興味を示さない生徒への指導と評価の研究 <ul style="list-style-type: none"> 指導法と評価標準の検証 生徒の意欲を引き出し、表現力向上を図る評価方法の工夫・改善
地歴・公民科	<p>平成22年度</p> <p>地歴・公民科 対象生徒:3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の実践研究の成果と課題を踏まえた学習指導に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> 調査・プレゼンテーションによる思考力・表現力の重点的向上を図る研究 <ul style="list-style-type: none"> 戦時中の地域の歴史についての聞き取り調査(夏季休業中)、それに基づくレポート作成、発表会の実施 指導方法等の検証及び改善 <ul style="list-style-type: none"> 授業評価をととした思考力・表現力育成の工夫 地域住民の協力を得た地域の状況についての考察 <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習により多くの地域での競争体験・資料の収集、それに基づくテーマ学習の展開 評価方法の研究 <ul style="list-style-type: none"> 評価結果の分析を基にした研究及び発表会等の実践評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 教科内における研修・検証を基にした相互の授業改善や評価方法の研究

4 目標指標の達成状況

指標	評価の方法	期待される成果	基準値 (事業実施前の状況)	平成22年度末の状況	達成度
生徒の学力把握	学力等実態調査の調査結果	全体の設問に対する正答率の向上	国語 64.9% 数学 47.7% 英語 44.8%	国語 60.4% 数学 42.7% 英語 46.1%	▼
	学習意識調査結果	家庭学習時間が1時間以上の生徒の割合が10%増加	1年生 21% 2年生 24%	2年生 25% 3年生 43%	★
		講習等の受講者の10%増加	1年生 38% 2年生 21%	2年生 40% 3年生 45%	●
	各種検定の受験者数と合格者数	受験者数の10%増加	1年生 28% 2年生 34%	2年生 58% 3年生 40%	★
		合格者数の10%増加	1年生 36% 2年生 61%	2年生 22% 3年生 36%	▼
生徒による授業評価の評価結果	「授業内容がわかる」と回答する生徒の10%増加	1年生 62% 2年生 60%	2年生 66% 3年生 66%	●	
思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組状況	生徒による授業評価において、思考力・判断力・表現力等の育成に関する項目の評価結果	思考力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 64% 2年生 65%	2年生 70% 3年生 72%	★
		判断力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 78% 2年生 82%	2年生 82% 3年生 86%	●
		表現力の育成に関する評価項目での改善傾向回答の10%増加	1年生 71% 2年生 69%	2年生 78% 3年生 72%	●
	校内研修会の実施回数	年5回実施	年4回	年9回	★
	各種研修会や学校視察等への参加状況	参加・出席数の10%増加	教職員 68%	教職員 85%	★
	研究授業の実施状況	各教科で、思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業研究を実施するとともに、本研究授業に関する研究授業の実施及び普及	各教科年1回	各教科年1回 ※年複数回実施する教科もある。	○
	研究授業の参観アンケートにおける回答	思考力・判断力・表現力等のアンケート項目の向上	—	全教科で実施	
	授業評価の活用状況	授業評価を活用した、授業改善プログラムの確立	—	全教科で実施	
評価規準の見直し・改善の状況	授業評価の該当項目の改善傾向の10%増加	—	9教科中3教科で実施		

※達成度 ★:5割以上達成 ●:3割以上達成 ○:1~2割達成 □:達成度1割未満 ▼:マイナス

○その他の成果

- ・表現力の育成により、生徒に互いの考えや意見を聞く態度が身に付き、コミュニケーション能力の育成が図られた。
- ・授業改善が進むことにより、教師の授業力や生徒指導力の向上が図られた。
- ・教師が生徒の考えや意見を丁寧に聞くことで、生徒理解が一層図られた。
- ・朝学習の取組と教科との連携により、家庭での学習課題を効果的に与えることができるようになった。

5 平成22年度における課題

- ・思考力・判断力・表現力を育成するために、PDCAサイクルに基づく継続的な授業改善を今後も実施していく。
- ・家庭学習時間や講習・模試・各種検定への参加は増加傾向にあるが、学力等実態調査の結果や検定合格率は下降傾向にあることから、生徒の学力差に対応した指導方法や基礎学力の定着を図る指導方法の工夫などの授業改善の取組が必要である。

6 2年間の実践による成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業やその報道をとおり、地域・家庭に教育活動が公開され、開かれた学校づくりに結びついた。 ・公開授業により中学校との連携が図られた。 ・新聞を活用した授業内容が新聞に掲載されることで、生徒が意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で思考力・判断力・表現力等を育成する具体的な指導内容等を年間計画に組み込む必要がある。 ・教科内での一層の協力体制を確立するとともに、他教科との連携を図る必要がある。 ・義務教育との連携を今後も継続していく工夫が必要である。

7 今後の取組及び成果の普及方法

地域・家庭と連携して開かれた学校づくりを推進し、協力して生きる力を育む必要がある。そのために、公開授業の実施、ホームページ・学校だよりを通じて、広く教育内容を公開するように努める。また、校内研修の充実により、教職員が共通認識をもち、思考力・判断力・表現力を育成する効果的な指導方法を研究する。